



耐久高等学校同窓会報

耐久



「濱口梧陵生誕2000年記念図書」
同窓会より寄贈

NO. 46



ごあいさつ

校長 大西弘之



耐久高等学校同窓会の皆様におかれましては、益々ご壮健にて、各界において多様な活躍をなされていきますことに、心からお慶び申し上げます。

今年の4月の人事異動により、耐久高等学校第21代校長を拝命し、務めさせていただいております。皆様方とともに、母校発展のため尽力できることにやりがいと誇りを感じています。どうぞ、よろしくお願いたします。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため今年の2月末より学校休業が続いていました。私の教師生活の中で卒業式を実施せずに生徒を送り出したことははじめての経験でした。以後、ウイルスの猛威は収まることなく年度末・年度当初を直撃し、学校での全ての教育活動がストップする事態となりました。何とか、入学式は換気や時間短縮といった感染防止のための工夫をすることにより実施することができましたが何と僅か18分の実施時間でした。式典としての物足りなさを感じつつも

ウイルスの脅威をあらためて実感しました。その後、何日間かの家庭学習課題の配付や提出、面談、登校日等を計画したものの通常の学校再開が果たされたのは6月15日でした。

しかしながら、学校再開以降、耐久の生徒たちは変わらずに元気に登校しています。多少の疲れや精神的な疲労等があるのかもしれないが、明るく活発で真面目に学校生活を送っています。朝早くから勉強やクラブ活動に没頭し、高校生活を送る喜びをかみしめているように感じられます。生徒たちは、世の中や社会が平和で平穏であるからこそ勉強やスポーツ、文化的な活動ができるということをもつて経験したのではないかと思えます。未だにマスクの着用や3密を避けることなど、学校の教育活動には様々な制約があります。その中でも生徒たちが少しずつ日常を取り戻し、より一層、自主・自律、高い「活力と品格」を併せ持った耐久生となるよう尽力してまいります。今後とも、すべての生徒が輝く学校を目指し、勉強やクラブ活動など生徒一人一人の夢の実現のため、本校教職員一同、一丸となって取り組んでまいりますので、皆様の母校へのあたたかいご指導とご支援をお願い申し上げます。

さらに、本校は再来年、創立170周年という節目の年を迎え、その準備が今年から本格的に始まりまします。同窓会の皆様にも、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

着任のごあいさつ

事務長 楠山京子



この4月の人事異動で、県立たちばな支援学校から転任してまいりました。和歌山県で最も古い歴史と伝統の本校に勤務できることを大変誇りに思います。

しかも今年には、濱口梧陵翁生誕二百年という年でもあり、記念すべき年に勤務できることに何かしらご縁を感じました。

しかし、今年の2月から新型コロナウイルスという新たな病原菌のため長期に学校休業が続き、卒業式も実施できず、入学式も時間短縮という今までにない事態となりました。学校が再開された今でも感染防止のために学校行事やクラブ活動も3密を避けるという制約が続いています。この状況の中で学校運営が円滑に行えるように微力ではありますが、全力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、同窓会の皆様方には、日頃より本校に何かとご協力をいただきありがとうございます。今後とも本校教育の充実のため、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

「濱口梧陵生誕200年記念事業」中止のお知らせ

同窓会長 大西義弘(高16期)



暑さ厳しい毎日ですが、同窓会会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。平素は同窓会活動に、ご支援・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年2月中旬より新型コロナウイルス感染が急速に拡大して猛威を振るい、4月16日、全国的に緊急事態宣言が出され、不要・不急の外出自粛が要請されました。ステイホームが続きましたが、ようやく5月中旬に緊急事態宣言が解除され、6月15日にやっと学校は平常授業になりました。和歌山県は現在、密閉・密集・密接の「三密」を避け、「手洗い・マスク」の励行や人との距離をあけるソーシャルスタンスなどの予防対策を要請しています。

6月、学校と本部及び有田耐久会の合同役員会を開き、協議した結果、本校生徒の健康・安全を守ることを第一に考慮して、本年10月11日(日)に開催予定の「濱口梧陵生誕200年記念事業」を中止することに、全役員の一一致をもちまして決定致しました。同窓会と致しましては、「記念事業」に向けて大々的に取り組み・準備を進めていたもので、非常に残念に思います。

皆様には、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

暑さ厳しい折、新型コロナウイルス感染予防や熱中症対策にご留意くださり、今後ともよろしくお願申し上げます。

通常の学校生活始動

教頭 亀井真竜

6月15日(月)から、授業やクラブ活動など、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、通常の学校生活を始動しています。

教室前にはアルコール消毒液を設置し、教室内では全員マスクを着用しています。また午前中の涼しい時間帯は、

教室・廊下の窓、扉を開け放ち、十分な換気を行っています。冷房時についても、授業中は、教室前後の窓、扉を開けてお



授業の様子



クラブ活動の様子

有田耐久会

陽春の中「広村堤防」に黒松植樹

— 災害復興学習と健康づくりの場に —

松をうえました

湯浅小学校3年 佐原向晴

ぼくは、有田たいきゅう会の人たちといっしょに松の木をうえました。

はじめ、松をうえるあなをほりました。松の木を10本うえました。

松の木をうえた場所は海とやくの近くの広村でいぼうです。大切

なていぼうなのでどきが出てきたらふくろに入れてくわしくしらべる

そです。それがおわってから松をうえました。なぜ松をうえたかとい

と、松は風に強いからです。ツルハシとスコップをつかって

あなをほりました。つぎに、松がたおれないようにもっていました。

そして、松と竹をひもでくくりました。松が大きくなるまで何年か

かるかわからないけど、どんなに高く大きく育つのか楽しみにま



支部連絡先	和歌山耐久会	関西耐久会	関東耐久会	有田耐久会
	会長 西 博 義 〒640-8321 和歌山市岩橋 1690-47 Tel 073-475-2677	会長 地 引 民 子 幹事長 宮 崎 裕 子 〒563-0017 大阪府池田市伏尾台 3-8-1 Tel 072-753-1219	会長 林 紀 男 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-3-12-1002 株式会社 オフィスコ コロ 桜パンケット Tel 03-3359-9520	会長 和 泉 保 廣 〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅 1985 耐久高等学校・同窓会事務局 Tel 0737-62-4148

濱口梧陵生誕200年記念図書贈呈式

濱口梧陵生誕200年の記念すべき令和2年6月15日(月)。同窓会より梧陵翁関連書籍約100冊と資料18冊が本校に寄贈され、贈呈式が行われた。この日は、全校生徒による通常登校が4ヶ月半ぶりに再開される日でもあり、生徒たちの再出発に花を添える贈呈式となった。

贈呈式には、大西会長をはじめとする同窓会役員と大西校長、楠山事務長らが参加した。楠山事務長の司会により進められた贈呈式では、西博義和歌山耐久会会長が、書籍寄贈に至るまでの経緯説明の中で「今日を機会に改めて生徒たちに梧陵翁の建学の精神を学んでもらいたい。『梧陵』や『稲むらの火』に関する書籍をさらに集め、耐久高校図書館の充実に協力したい」と述べられた。

続いて大西義弘同窓会長から大西弘之校長に目録が贈呈された。大西会長は「今日のように梧陵翁の遺徳を偲ぶ機会を得られたことに感謝したい」と挨拶。大西校長は「生徒・職員ともに梧陵翁の偉大な功績を学ぶために、これらの図書を大切に活用したい」と謝辞の中で語った。

その後、寄贈された書籍・資料が展示されている図書館を視察。図書館内中央の「濱口梧陵翁生誕200年」が掲げられた特別展示コーナーは、大藤学校司書による手作りの栞や資料の説明書きなど、生徒にとって分かりやすく興味を引くような工夫が随所になされていた。

事務局



「ふるさと和歌山応援寄附」を募集！ 和歌山県立耐久高校に

今年の4月から、長年にわたる私たちの要望が実現し、県下の高等学校に「ふるさと納税」制度が適用されることになりました。おりしも今年は創立者濱口梧陵翁生誕200年、ふるって母校の教育環境充実のために応援をお願いします。

「ふるさと納税」は一定限度額までは「寄附した額から2000円を差し引いた額」が税金から戻ります。振込用紙は学校事務室に用意しています。

耐久高校に関係する皆様からの寄附による応援をお待ちしています。

詳しくは学校事務室までお問い合わせ下さい。

お問い合わせは耐久高校 (Tel.0737-62-4148 Fax.0737-62-2251) まで。



医療法人 若葉会
ながたに歯科
長谷晋作 (高33期)
ヨイハニ
TEL:0737-63-4182
湯浅町湯浅1456-8
休診日:木、土午後・日・祝日

田辺法律事務所
弁護士 田辺 善彦
(高14期)
〒640-8144 和歌山市四番丁26番地の2
TEL 073-431-2801
FAX 073-433-2299

心の健康相談・更年期の健康相談
じん にん
神人クリニック
院長 神人 勉 (高18期)
〒732-0053 広島市東区若草町18-46
TEL 082-261-0600

小畑産業株式会社
代表取締役 小畑 英三 (高18期)
〒640-8033 和歌山市本町3丁目18番地
TEL 073-423-4148 FAX 073-431-4505
ei-kobata@kbts.jp

メールアドレス shirai-t002@wakayama-c.ed.jp

勝海舟お手製の茶碗

江戸時代の幕末から明治維新にかけて、大活躍した人物は多くは居なかったと思います。明治新政府の中心人物は、徳川幕府を倒すために働いたのですから、両方で活躍することはなかなか考えられません。そうした中でも活躍した一人は、「勝海舟」ということになり、幕府方の代表として、新政府側の西郷隆盛と江戸城明け渡しの交渉をしました。明治維新後は、旧幕臣の代表格として新政府に参画しました。

このような海舟ですが、若い頃は貧乏旗本の息子で、勉強はしたくても本を買いお金に不自由をしていました。濱口梧陵翁は知人から海舟を紹介されて交際が始まり、資金援助もしました。

梧陵翁は、黒船が来た頃、幕府に対してアメリカへの渡航申請を出しましたが、認められることはありませんでした。それを知っていた海舟は、咸臨丸で渡米するときに、和歌山市加太へ来て一緒に行くように誘いにも来ませんでした。その時は、梧陵翁は家業に専念するため同行は出来ませんでした。二人はそのような関係です。出世した勝海舟は若い頃から支援して貰った梧陵翁に、趣味で

作った楽焼茶碗を進呈しました。この茶碗には「看破浮生一半 海舟」（はかない人生を見通すこと道半ば 海舟）と書かれています。その後、この茶碗は、梧陵翁から知人に贈られていました。数年前、その知人の吉村英徴医師の御子孫から元の持ち主濱口梧陵翁の関係のところへと、「稲むらの火の館」へ寄贈していただきました。「館」では「濱口梧陵生誕200年」の今年、初めて館内で展示をして一般公開をしました。

勝海舟は全国的に知られていまずので、ここでは吉村英徴医師を紹介いたします。

吉村英徴医師は、嘉永5年（1852）紀州藩土普沼家の次男として生まれ、17歳で吉村家を継承しました。和歌山県漢学教授を務めていました。ということとはエリート街道を歩んでいたのですが、それをやめて京都の療病院医学校（現・京都府立医大）で西洋医学を学び、その後は医局員として働いていました。江戸時代はオランダ医学が外国からの最先端医学でしたが、明治時代になると英・仏・独等の西洋医学が最先端医学となったのです。紀州での医学の充実を考えてい

た濱口梧陵翁の要請で、吉村英徴氏は明治17年広村庄屋の湯川氏宅屋敷内に「那耆病院」を設立しました。この病院は和歌山県で最初の私立病院です。その頃の有田の医師のほとんどが漢方医であったため、西洋医学の重要性を説き啓蒙に努めました。吉村氏は、有田医師会を設立し初代会長に就任され、有田郡産婆及び看護婦養成所教授としても活躍しました。「耐久学舎」の教員もされていますので、「耐久」とも深い関係があり、それこそ八面六臂の大活躍でした。また、和歌山県から選ばれ衆議院議員も務められました。

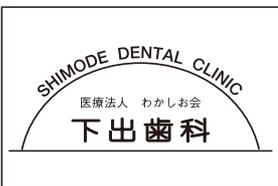
一つの「楽焼茶碗」にも、「海舟」「梧陵」「英徴」が繋がる、こうした物語があるのです。

崎山光一（高20期）



看 破 浮 生 一 半 海 舟

はかない人生を見通すこと道半ば 海舟

 <p>SHIMODE DENTAL CLINIC 医療法人 わかしお会 下出 歯科</p>	<p>下出 優 (高・理数2期・S48卒) 下出 輝 (高54期) 広川町広292-1 TEL (0737) 63-6482</p>	<p>ペットと泊まるログハウスの宿 パートナーズハウスゆあぞ 横山 享 (高14期) 湯浅町山田山・TEL・FAX 0737-65-3411 URL:http://www.partnershouse.jp</p>	<p>総合ビルメンテナンス・特定人材派遣 (株)ウイ・キャン・コーポレーション 取締役会長 岡 伸彦(高14期) 代表取締役 岡 勇作(高19期) 大阪市旭区中宮4丁目14番9号 TEL 06-6954-0346 FAX 06-6954-0577</p>	<p>各種印刷・紙器・果実包装紙 辻本印刷所 〒649-0303 和歌山県有田市新堂208-1 TEL (0737) 82-4444・82-5400 FAX (0737) 83-6006</p>
--	--	--	---	---

◆ 地元、有田耐久会にご入会を！ (お問い合わせは事務局 0737-62-4148)

特集

濱口梧陵生誕二〇〇年記念特集 Ⅱ その五 Ⅱ

濱口梧陵翁生誕200年に寄せて



崎山 光一 (高校20期)

はじめに

私たちの「耐久」の創立者濱口梧陵翁が文政3年(1820)に紀州広村で、濱口儀兵衛家の分家酒屋七右衛門の長男として誕生したことは、皆様既にご承知のことと存じます。それからちようど200年の本年、広川町では「濱口梧陵生誕200年未来会議」を設立して、梧陵翁の偉業を顕彰、その志を継承して、国内外に発信しようと考え、1年間を通して諸々の事業を計画しました。

梧陵翁の誕生日の6月15日には記念式典、前日には記念シンポジウムが大々的に計画されました。ところが、昨秋から新型コロナウイルスが世界中を襲いました。それでも当初は、これまでの感染症の流行と同じく、数ヶ月で終息するだろうと思っていました。だから6月のイベント開催には何の疑いも持っていませんでした。時間

が経過しても終息どころか、感染が拡大する一方になりました。イベントはほとんど中止、延期となり「稲むらの火の館」も4月14日から臨時休館となつてしまいました。よりによって「稲むらの火の館・濱口梧陵記念館」とつて、この重要な記念すべき年に、たいへん悔しい気持ちで一杯です。

そういう状況ですが、記念になることを書き記してみたいと思います。

教科書に載ったのは「稲むらの火」だけではなかった

皆様は、安政地震・津波の際の濱口梧陵翁の行動を小泉八雲が著した「A Living God(生ける神)」を基に、私たちの先輩中井常蔵氏の「稲むらの火」が国定教科書に載つて、梧陵翁の活躍が全国に知られたと思つてゐるでしょう。私も、多くの見学者に昭和12年から22年までの間「稲むらの火」が国定教科書に掲載されていましたが、と説明して参りました。もちろん、このことに間違いはありません。



しかし、小泉八雲の「生ける神」を基にした話が教科書に載つたのは、「稲むらの火」が最初ではなかったのです。大正14年(1925)中等学校用国語教科書に「濱口五兵衛の話」、昭和6年(1931)中学校国語漢文科用教科書に「五兵衛大明神」という題名で掲載されています。「生ける神」を基本にしたもので、中井氏のようにアレンジして分りやすくしたのとは違つてゐます。また副読本等には昭和22年以降もほとんど切れ目なく載つてゐます。

現代でも、平成23年(2011)の東日本大震災の年から、国語や社会、理科というように、また近年は道徳の教科書にも掲載されてきました。東日本大震災の時に、もう1年早く教科書に載つていたら、犠牲者はもっと少なくなつていただろうに、と多くの方々が残念がったものでした。

ところが、今年の改訂では国語の教科書から消えてしまいました。南海トラフの巨大地震が1日と近づいていると言われている今日、「稲むらの火」を基にした防災教育の必要性に対して考えが変わつたのか問うてみたいものです。非常に残念な出来事です。

堤防築造の目的は何だったのか

「稲むらの火」は濱口梧陵翁が地震の後津波の襲来を察知、避難誘導をして多くの村人を助けた、ということでした。ところが、現代では梧陵翁の活躍はむしろその後だった、と言われてゐます。それは、安政地震・津波から広村を復旧・復興させたことにあると思ひます。もちろん、一族や知人の協力もありましたが、多額の私財を投じたことです。

仮設住宅の建設や湯浅との間の橋の架け替え、村人の生活支援等現在ならば国家が行う事業です。中でも一番の復興事業は「広村堤防」の築造です。築堤の目的は、まず一番は次の津波から村を守るという「防災」というのは誰にでも分かることです。次は、地震津波で被害を受けた村人の生活を守るために、堤防築造の仕事を日当稼ぎの場を提供する「就労対策・生活支援」でした。三番目としてこれまで言われてきたことは、広村は結構年貢・固定資産税が高く、中でも一番の場所は便利

橘家 橋爪正文(高39期)
 Wedding Hall TACHIBANA
 ご予約は
 TEL 0737-88-7005
 FAX 0737-88-7775
 URL <http://www.tatibanaya.jp>
 〒649-0434 有田市宮原町新町17

金山寺醬園造元
太田久助吟製
 太田庄輔(高15期)
 〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町北町
 TEL (0737) 62-2623
 FAX (0737) 62-4811

「おいしさの仕上げは、やさしさのトッピング」
カフェ&ベーカリー オリーブ
 有田川町熊井759-1
 TEL.0737-52-8565
 営業時間 9:00~18:30
 (カフェ/9:00~18:00)
 定休日/日・月・祝
 HP <http://www.wasaren.org/olive/>

金山寺みそ 醸造元
か 垣内みそ店
 垣内欣久(高15期)
 本店 湯浅町別所342-1
 TEL (0737) 63-5855
 和歌山店 和歌山市里45-1
 TEL (073) 462-7003

同窓の情報交換のスペースとして会報を活かしましょう。

な位置にあった海岸でした。だから、その場所を堤防用地という官地にすることによって広村の年貢・固定資産税の平均を下げる「節税」も目的としたと言われてきました。

東日本大震災の直後に、毎日新聞の記者が東京から取材に来られ、「この堤防には地震や津波で潰された家や海から打ち上げられた岩や砂利等、現在の言葉で言う『がれき』が埋められている。『がれき』処理の先例である」というような記事を書かれました。ところが、その頃はそのことを裏付ける資料がなかったのです。それが近年広川町内の旧家から出てきた古文書の中に見つかりました。

「広村ノ租税ヲ軽減スルノ方法トシテ価格ノ高キモノヲ堤防敷地トナシ置キ其後海嘯堤防ト云ウ名目ノモトニ之ヲツブシ且ツ破壊家屋ヲ捨テル場所ヲ兼ネテ人民ノ仕事ヲ多クセン為メニ大事業ヲ起サシテ藩主ト交渉」

この資料によって、堤防築造の四番目の目的が確認できました。このように



一つの事業をするにしても、いくつもの目的をもって実行したということなのです。

「濱口梧陵学」のすすめ

冒頭の項で、「濱口梧陵生誕200年未来会議」のことを説明しました。

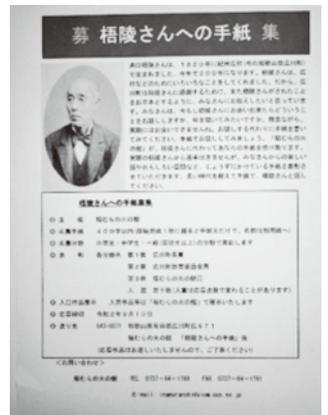
昨年9月に、この発足会議に合わせて委員でもある四天王寺大学の曾野洋教授が記念講演の中で、「濱口梧陵学」の創設を提案されました。その後、曾野教授の寄稿文が稲むらの火の館の情報チラシ「やかただより」に掲載されることになりました。私は、曾野教授の提案だけではなく、梧陵翁の事績に関わる各界の方々にお願いをして御寄稿いただくことを逆提案しました。ご依頼をした方々には世界的な防災研究者等著名な先生もおられます。こうした方々の御寄稿文は7月号から掲載させていただきますがたいへん興味深いものです。

広川町では、「やかただより」は全戸に配布していますが、「稲むらの火の館」のホームページでもご覧いただくことが出来ます。是非、読んでみてください。

ちなみに、この「やかただより」は国立国会図書館の収集対象にも指定され第1号から全て収集されています。

『「梧陵さん」への手紙』を募集しています

「稲むらの火の館」へは多くの小中学校が社会見学や修学旅行で来られます。中には見学の感想文を送ってくる学校もあります。こういう経験から、



「生誕200年」の記念事業にと考え出したのが、「梧陵さん」への手紙を募集してみようというものです。最近、子ども達は学校の教科書で、「稲むらの火」や「濱口梧陵」の行動を勉強する機会が増えています。大人の人たちは、東日本大震災を目の当たりにして、津波に無関心でいられないと感じたことでしょうか。

更に、毎年起こる豪雨災害等を知るにつけ、災害時の避難行動を身に付けておく必要を感じたことも事実だと思います。普段から「稲むらの火の館」へ来館され、熱心に見学・学習されている様子を眺めて、そうした行動を自分自身のものにしていただこうと思われました。感じたことを文章に表していただくことが一番だと考えました。それを「梧陵さん」への手紙」として表現していただこうというものです。

普段、自然災害に備え、子どもや孫たちに伝えていくこともあると思います。今年の、新型コロナウイルスに世界中が襲われ、先の見えない感染症対策にも悩んでいます。江戸時代の末期もコレラが流行したときに、梧陵翁は蘭学医と共に防疫と治療のために尽力し

ました。コロナとコレラ、タイムリーな話題です。「濱口梧陵」の時代の出来事が、現代にも同様の事として起こっているのです。

私は普段、梧陵翁の究極の目標は教育であった、と言っています。「広村稽古場・耐久社を創ったのも、もちろん青年の教育が目的ですが、諸外国から黒船で攻撃された時に、自分達でこの国を守るということも意識の中にありました。

現在に生きる私たちも「梧陵翁」の行動を教訓として受け継いでいくことが、幸せな人生を歩む重要なことだと思います。こうしたことを、「梧陵さん」への手紙」として著わしていただきたいと考えたのが、この取り組みです。

おわりに

私たち「耐久」の創立者「濱口梧陵翁」生誕200年の今日、「梧陵翁」の幅広い行動、偉業を思い起こし、検証してみた時、現代社会にも十分通用することがたくさんあります。私がお勧め、「耐久高等学校同窓会報」へ寄稿させていただきます。改めて皆さんと共に「耐久」の同窓生として誇りを持ち、前を向いて進んで行きたいと決意しながらペンを置きたいと思えます。

プロフィール

- ・昭和24年8月生まれ・広川町在住
- ・昭和43年 耐久高校卒業(20期)
- ・昭和47年 広川町教育委員会(59年退職)
- ・平成16年 広川町語り部サークル結成・代表
- ・平成26年 稲むらの火の館館長に就任
- ・平成29年 和歌山県知事表彰(防災功労)

最近まぎらわしい呼びかけの電話や郵便が多くなった様です。十分ご注意ください。



第43回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会より

部活OB・OGたちの絆

囲碁将棋部の巻

本年度は、囲碁4名、将棋10名の14名で週三回活動しています。活動日以外にも各自フットで自主的に練習に取り組む棋力を高めています。特に囲碁は、囲碁教室に所属していた生徒を中心に切磋琢磨して練習に励み全国大会に出場しています。

今年度は、県冬季囲碁大会個人戦で優勝、三位になった2名の生徒が第44回全国高校総合文化祭への出場を決めました。残念ながら新型コロナウイルスのため大会が中止になりました。さらに昨年出場し、連続出場を目標に練習を重ねてきた第44回全国高校囲碁選手権大会も開催を見送ることになりました。

養を目的として活動しています。生徒たちが、対局の過程を通して、少しでも自分自身を成長させることができればと思いつながら部活を楽しんでいます。

最近5年間で出場した全国大会
(第39回大会は女子、他は男子)令和元年度

第43回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会(個人戦・団体戦)
第43回全国高校総合文化祭(佐賀総文)囲碁部門(県選抜団体戦)平成29年度

第41回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会(個人戦・団体戦)
第41回全国高校総合文化祭(宮城総文)囲碁部門(県選抜団体戦)平成28年度

第40回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会(個人戦)
第40回全国高校総合文化祭(広島総文)囲碁部門(県選抜団体戦)平成27年度

第39回全国高校総合文化祭(滋賀総文)将棋部門(個人戦)顧問 柴田秀作

紡

俳壇・歌壇

- ・ 網戸嵌め涼しき風の柔らかし 大江利子(高18期)
- ・ 早天に眠りを覚ます慈雨の音 尾崎 功(高18期)
- ・ ピカピカのランドセル背負い待ち合わせ 二ヶ月遅れの全員登校 池永義子(高21期)
- ・ やたらがらす 八咫鳥・こま犬一対・マスクつけ 北野惣一(高24期)
- ・ コロナに克つと熊野の神社

本年は、濱口梧陵生誕200年、地域・学校での記念事業が予定されていましたがコロナのため相次で中止になりました。梧陵翁は、多方面に活躍していますが、医療にも多大の功績を残しています。コレラ・天然痘などの感染症予防に巨額の私財を投じました。安政コレラの際、旧知の医者を江戸に派遣し、防疫法を学ばせ銚子の町への蔓延を防ぎました。天然痘予防には、焼失した西洋種痘所(東京帝国大学医学部の前身)の再建に尽力し医学書や医療機器の購入に支援を惜しみませんでした。

梧陵翁は1820年生まれですが、近代看護教育の母といわれるナイチンゲールも同年の生まれです。クリミア戦争(1853)に看護師団のリーダーとして派遣され負傷兵への献身や統計に基づく医療衛生改革で有名になりました。のち、病院建築にも非凡な才能を発揮しています。英国のジョンソン首相がコロナに感染し入院した「セント・トマス病院」はナイチンゲールの看護学校が前身だそうです。

和歌山県のコロナ対策が、和歌山方式といわれ評価されています。国内初の院内感染の指揮を執った県福祉保健部技監(お医者さんでもある)の野尻孝子さんは耐久25期生です。

今、私たちにできることは「感染を恐れすぎず、日常の感染予防対策を徹底し、経済や日常生活を進めること」でしょう。ワクチンが開発され、コロナのパンデミック終息の早いことを祈ります。

『編集後記』

「新型コロナウイルス感染症」は、瞬く間に全世界に感染拡大し、各国に深刻な打撃を与えています。日本においても、社会経済活動や家庭生活等に様々な影響をもたらしています。

今回の同窓会報も一時、発行が危ぶまれたのですが、何とか会員の皆さんにお届けすることができ、編集者一同、ほっとしているところです。

各期の同窓会や耐久会が中止を余儀なくされ、中身的には寂しい一面もあるのですが、今年度、大西校長、楠山事務長が当校に赴任され本誌に寄稿、大変心強く感じました。記念特集も五回目となり、崎山館長さんが執筆くださいました。初めて知り得たエピソードも数多くあり、興味深く拝見しました。『絆』では「囲碁・将棋部」の活躍の様子を知ることができましたし、『紡』の各作品にも心を癒やされ、「コロナ禍」の中で衣服の清涼剤となりました。

最後に、当校への「ふるさと応援寄附」どうかよろしくお願ひ申し上げます。

